

政権交代したからできたこと



財務大臣 政務官
衆議院議員

Shinichiro Furumoto

ふるもと伸一郎

普天間が現行案に落ち着きそうですが、全国からお叱りが寄せられている状況です…と書けば新しい事への挑戦が未来思考になりません。普天間から得たものと失ったものを述べます。原点は政権交代とは何かです。政治的な変化に国民は何を期待し政治はどう応えるか、つまり互いの呼吸が合わなければ息ができません。米国の先の政権交代はイラク戦争がシングルイシュー（大争点化）でした。歴代の政権交代も大増税の民主党から共和党への交代等、期待値は明確でした。日本は長年の一党支配から初めての交代であり、『変化』への期待感は何だったのか。「〇〇を変えます」と公約した政治と受け止めた国民が、互いに曖昧だったかもしれません。

例えば高速道路の無料化です。料金は現代の間所であり、無料化すれば物流や人の移動が劇的に変わると宣伝しました。ところが、皆様からは渋滞する等の理由から愚策とのお叱りを頂き、国民との対話から軌道修正したところ、今度は嘘つきと言われます。つまり、期待値は無料化か、或いはそこに至るブレークスルーに挑戦する姿なのか。緑色の看板を見ればお

ふるもと

Furumoto Report

<http://www.s-furumoto.net>

金を払いなさいと教え込まれたドライバーは長年、大きな疑問も持たずに巨大な社会インフラを前に逆転の発想に立てませんでした。現在の土日1000円も民主党が無料化を言い出したから自民党がたまたま導入した経緯からも、挑戦の意味は大なのです。政治が課題提起し、大衆論争に持ち込むサイクルを国民が定着させるべきです。

そこで普天間です。日本の安全保障をワイドショーレベルでも注目する契機になった点こそが成果ではないでしょうか。鳩山内閣の信頼は大きく失いましたが、米軍基地の問題は日本の安全保障の問題なのに、特別の補助金や減税で沖縄県民の問題として局地化させてきた長年のやり方を変える政治的な使命がありました。一口に「米国にモノを言う政権」です。平時の安全保障は日本が負担すべきですが、有事の安全保障は米軍に頼る現実があります。万、他国からミサイル攻撃を受けた場合、自衛隊は専守防衛には努めても、反撃は武力行使となります。駐留米軍は嫌だから出て行けと多くの日本人が思うならば、最低でも消費税の2%程度はPAC3等の迎撃システムの充実や兵力増強に充てると同時に、必要な法改正を国民に問いかけ、理解していただく必要があります。すなわち、普天間の問題は①有事の安全保障を誰がどう支え、②国家の大前提である安全保障を国民全体で分かち合う、2点の課題提起でした。日米安保を教科書でしか知らない世代が国民の過半となった現在、総理はこの点をもっともつと語りかける責任があります。そうしなければ今回の挑戦が単なる移転話に終わってしまいます。

(5月下旬記)

※PAC3 地对空ミサイル迎撃システム

日本には現在在エリアにしか配備されていません